

町長の行政報告 (抜粋)

■東日本大震災からの早急な復旧・復興

●除染対策は、道路除染の現場作業を5月末で完了した。住宅、道路等の除染はすべて終了し、今後は保管除去土壌等の搬出の加速化を図る。

●県北浄化センターに設置された汚泥保管テントは、2月末に解体が終了。4月から仮設汚泥乾燥施設の解体に入り、今年度中に撤去を完了する見込みである。

●あんぼ柿の産地再生に向けた取り組みは、今年度の出荷目標を震災前の88%、1,350トンとし、全量非破壊検査の実施を決定した。

■安全安心な町政の実現

●4月19日から20日にかけての強風被害は、上野台運動公園でテニスコートのネット支柱が根本から切断し、コートを使用禁止とした。総合運動場ではネットが破れるなどの被害があり、早急に修繕作業を進めた。

●5月19日開催の福島圏域首長懇談会において、蔵王山、吾妻山、安達太良山の火山噴火などの災害に対し、市町村間の早期支援を目的とした「火山災害時における相互応援に関する協定」が関係7市町で締結された。

■活力ある町政の実現

●道の駅国見あつかしの郷は5月3日にグランドオープンした。6月11日には来場者30万人となり、道の駅を核としたさらなる交流人口の拡大に積極的に取り組んでいく。

●国見ルネサンス2017ふるさと祭は、6月4日、「ずっと好きです国見町」をテーマに開催し、町内で活躍する各種団体の出演をいただいたほか、応援大使の方々から心温まるメッセージをいただいた。また、平松愛理さんを招いてステージを開催し、フィナーレでは参加者の皆様

と「ふるさと国見町」への想いを共にし、復興への思いを新たにしたい。

■思いやりのある町政の実現

●子育て支援事業は、道の駅の構内に開設した「つながる〜む」と「くにももたん広場」とで連携し、子どもたちの安全安心な遊び場、親子の交流の場として運営したいと考えている。

●「朝ごはんを食べよう大作戦」については、6月17日に道の駅で開催された。町の食育推進計画を受け、食育月間に合わせて開催したもので、食生活改善推進員の方々のご協力により朝食摂取について啓発を図った。

■町の継続的な維持発展

●域連携事業は、福島大学とは昨年引き続き「集落活性化事業」や「歴史を生かしたまちづくり」の分野、また、今後新たに農業分野にも取り組む予定。桜の聖母短期大学とは「食育」と「未来づくり」の分野で取り組みを進める。

●泉田・泉田下簡易水道の給水区域は、4月1日をもって上水道へ統合を完了した。水道未普及区域だった新田地区についても、3月31日より給水を開始した。

●国見学園コミュニティスクール委員会では、くにも幼稚園、国見小学校、県北中学校の運営の基本方針を承認いただいた。また、「いじめ問題対策連絡協議会」を開催し、中学生から「いじめ0」宣言による取組提案がなされた。

●地域学校協働本部事業は、コーディネーターや学習指導者などを配置し、子どもの学習相談や学習課題に対応できる学習室を5月連休明けから国見小学校、観月台文化センターで開設しており、小学生は1回あたり約30名、中高生の利用者は平均18名である。

一部事務組合報告

※一部事務組合とは
複数の市町村などで行政サービスの一部を共同で行うために設置する組織

医療機器を新たに購入

藤田病院組合議会

3月27日、第1回定例会が開催され、28年度補正予算、核医学診断用装置などの購入を含む29年度当初予算の2議案を可決しました。
平成29年度当初予算
◆収益的収支予定額
収入・支出
61億3,600万円
◆資本的収支予定額
収入 1億6,419万円
支出 5億5,18万円
(資本的収支の不足分は、過年度分損益勘定留保資金で補います。)

3月27日、第1回定例会が開催され、28年度補正予算、仮設焼却炉の運営にかかる除染事業費35億円など総額46億7,900万円(一般会計、し尿処理特別会計、ごみ処理特別会計の合計)の29年度当初予算など7議案がすべて可決されました。(報告者 浅野富男)

空調設備を改修

伊達地方消防組合議会

3月29日、第1回定例会が開催されました。28年度補正予算、北分署庁舎の空調設備改修費用2,100万円を含む総額15億9,400万円の29年度当初予算など、5議案がすべて可決されました。(報告者 村上正勝)

仮設焼却炉の運営費が大半を占める

伊達地方衛生処理組合議会

3月29日、第1回定例会が開催されました。28年度補正予算、仮設焼却炉の運営にかかる除染事業費35億円など総額46億7,900万円(一般会計、し尿処理特別会計、ごみ処理特別会計の合計)の29年度当初予算など7議案がすべて可決されました。(報告者 浅野富男)

Q 猟友会の高齢化打開のためハンター育成への考えは

A 今後とも情報収集に努め育成強化策を検討する



渡辺勝弘議員

な被害防止対策などを検討する。設立した協議会を核として町民の安全安心の確保のために今後もしっかりと対応していきたい。

問 協議会に出席の情報発信はどうするのか。
課長 協議会に出席した関係機関、団体では情報を共有している。出席していない機関や一般市民の方には会議の開催や内容はお知らせしていない。今後は、町民の方にお知らせする必要があります場合は、積極的に情報発信はどうするのか。

課長 協議会に出席した関係機関、団体では情報を共有している。出席していない機関や一般市民の方には会議の開催や内容はお知らせしていない。今後は、町民の方にお知らせする必要があります場合は、積極的に情報発信はどうするのか。

課長 協議会に出席した関係機関、団体では情報を共有している。出席していない機関や一般市民の方には会議の開催や内容はお知らせしていない。今後は、町民の方にお知らせする必要があります場合は、積極的に情報発信はどうするのか。

課長 協議会に出席した関係機関、団体では情報を共有している。出席していない機関や一般市民の方には会議の開催や内容はお知らせしていない。今後は、町民の方にお知らせする必要があります場合は、積極的に情報発信はどうするのか。

課長 協議会に出席した関係機関、団体では情報を共有している。出席していない機関や一般市民の方には会議の開催や内容はお知らせしていない。今後は、町民の方にお知らせする必要があります場合は、積極的に情報発信はどうするのか。

極的に情報を発信していきたい。

問

イノシシでの農作物被害が現在も発生していると思いが、現況をどのように把握しているのか。

課長 把握の方法は、農家からの通報や相談によるものである。今年度6月15日現在、イノシシ、ニホンザルによる被害は6件で約3万円の被害金額であった。

問 農作物被害が不安を払拭するために対策を考えているのか。
課長 イノシシを対象とした山手の農地侵入防止対策としてワイヤーメッシュ柵を設置しているが、100%防止はできていない。壊されている箇所もある。

問 農作物被害が不安を払拭するために対策を考えているのか。
課長 イノシシを対象とした山手の農地侵入防止対策としてワイヤーメッシュ柵を設置しているが、100%防止はできていない。壊されている箇所もある。

問 農作物被害が不安を払拭するために対策を考えているのか。
課長 イノシシを対象とした山手の農地侵入防止対策としてワイヤーメッシュ柵を設置しているが、100%防止はできていない。壊されている箇所もある。

そのための維持管理も必要である。また、農家の方々が農作物被害防止のため設置する電気柵の補助金も交付している。花火も支給しており、自己防衛にも取り組んでほしいと考えている。今後協議会を核として活動していく。

問

有害鳥獣駆除には猟友会の協力が不可欠である。全国的に高齢化が進みメンバーが減少しているが、ハンター育成や補助金制度を検討すべきではないか。

課長 ハンター育成講習の有無など、情報収集については現在も行ってきている。町単独

問 有害鳥獣駆除には猟友会の協力が不可欠である。全国的に高齢化が進みメンバーが減少しているが、ハンター育成や補助金制度を検討すべきではないか。
課長 ハンター育成講習の有無など、情報収集については現在も行ってきている。町単独

問 有害鳥獣駆除には猟友会の協力が不可欠である。全国的に高齢化が進みメンバーが減少しているが、ハンター育成や補助金制度を検討すべきではないか。
課長 ハンター育成講習の有無など、情報収集については現在も行ってきている。町単独

問 有害鳥獣駆除には猟友会の協力が不可欠である。全国的に高齢化が進みメンバーが減少しているが、ハンター育成や補助金制度を検討すべきではないか。
課長 ハンター育成講習の有無など、情報収集については現在も行ってきている。町単独



地域で協力し設置した柵も完全な侵入防止はできない